

# 紗那のさけますふ化場（択捉島）

建築



ふ化場の天井の木組み  
(2016年9月撮影)



今も残るふ化場全景  
(2016年9月撮影)

択捉島紗那には、戦前に日本人が建設したさけますのふ化場が、九十年以上経過した今も現役として使用されている。

ふ化場は、紗那川の河口から約二十キロメートル上流にあり、北海道区水産研究所（札幌市）の資料によると、一九二〇年（大正九年）に日本人の漁業者団体が建設し、終戦まで日本人によってふ化事業が行われていたという。

平成二十八年九月の自由訪問団が同施設を訪問し、建物は三角屋根の木造平屋で、内部には水の張られた細長い養魚池が四列に並び、底には砂利が敷かれているのを確認した。

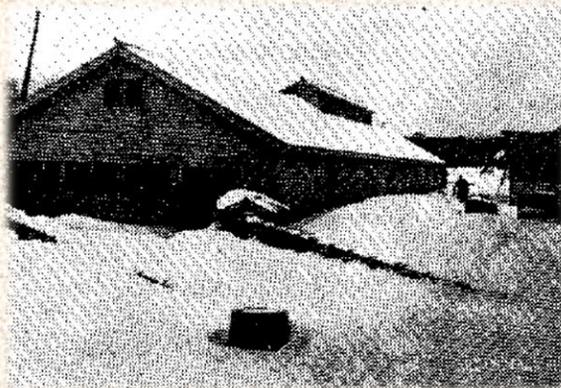
ふ化場に勤務するロシア人技師によると「この施設は今も現役。池に砂利を敷くのは日本人の技術で、今もシロザケのふ化に最も適している」と話したという。



砂利が敷かれた養魚池  
(2016年9月撮影)



裏手から見たふ化場  
(2016年9月撮影)



昭和8年に撮影されたふ化場  
(北海道さけ・ますふか場1970年  
「魚と卵 No.133」より引用)